

6-2 小児救急患者の実態

神奈川県立厚木病院 高橋 信夫

神奈川県立厚木病院において昭和52年4月からの1年間に救急患者として取扱った15才以下例を小児科例と外科系例とに分けて検討した。

この両群の総数はほぼ同数であるが、外科系例がやゝ多く、小児科例は夏に少く、冬多いのに比べ、外科系例は冬に少く、春から夏に多かった。

その年齢別構成は、両群とも1~6才児が同率(65%)を示したが、小児科例は1才以下乳児が最多で、年長になるにしたがい段階的に減少していた。これに比べ外科系例は3才児がピークを示した。

来院した時間帯は、小児科例が深夜帯にも来院するのに比べ、外科系例はほとんどなく、人の非活動時間帯に一致して少なかった。そして活動時間帯の中では特に午後増加していた。

小児科例の内訳は、発熱(48%)、腹痛、下痢、嘔吐等の胃腸症状(26%)、喘息発作(7%)、痙攣(5%)等が主なものであった。

外科系例の内訳を分析するにあたり、厚生省大臣官房統計調査部の「疾病、傷害および死因統計分類提要」昭和43年版を多少改変して用いた。

その結果、「その他の不慮の事故」32%、「不慮の墜落」31%、「自動車交通事故」13%、「その他の道路交通機関事故」(そのほとんどが自転車による事故)13%、「肘内障」6%がその主なものであった。

「その他の不慮の事故」の内訳では、「物体の衝突または物体による不慮の打撲」が34%で最も多く、「刃器および刺器による不慮の事故」24%、「高熱物体、腐食性液体および蒸気による不慮の事故」14%、「物体間または物体内にはさまったり、ひっかかったり」の不慮の事故」8%の順であった。

傷害の性質を分析すると、「頭、頸および体幹の裂傷および開放創」が20%で、「上・下肢の裂傷および開放創」は15%、「挫傷および破砕(皮膚表面に損傷のないもの)」11%、「表在損傷」9%、「骨折を伴わない関節脱臼」7%、「熱傷」5%の順で、「骨折」は5%であった。とくに頭部打撲を別に集計したところ21%も高率を占めていた。

これらの「不慮の事故および暴力」以外の外科的疾患は、外科系例の約4%で、ヘルニアの嵌頓、急性虫垂炎がほぼ同数で、その大部分を占めていた。

小児科例のうち、入院を要した例は3.5%であるのに反し、外科系例のうち入院したものは9%で、脳神経外科では自動車交通事故、外科では急性腹症、整形外科では転倒、転落による事故がそれぞれ最も多く、外科系例合すると、自動車交通事故、転倒、転落による事故、急性腹症の順に多かった。

以上のように、1地域病院における救急患者の分析の結果、外科系例の大部分はいわゆる不慮の事故によるものであった。今回はその実態を調査するに止めたが、今後はこれら小児のその後の発育その他に及ぼす影響等についても追跡調査するように努めたいと考えている。

不慮の事故，中毒および暴力

外 因

自動車交通事故	1 6 0	1 3
自動車非交通事故	2 1	
その他の道路交通機関事故	1 5 2	1 3
薬品および医薬品による不慮の中毒	2	
不慮の墜落	3 7 1	3 1
火災および火焔による不慮の事故	2	
その他の不慮の事故 ※	3 8 4	3 2
外科的および内科的処置の合併症および事故	3	
他殺および他人の加害による傷害	5	
肘 内 障	7 4	6
合 計	1 1 9 8	%

※ その他の不慮の事故

不慮の溺死および溺水	1	
食物の吸入または嚥下による閉塞および窒息	1	
その他の物体の吸入または嚥下による閉塞および窒息	4	
眼および附属器への不慮の異物侵入	2	
その他の孔口への不慮の異物の侵入	9	
落下物による不慮の打撲	1 8	5
物体の衝突または物体による不慮の打撲	1 3 2	3 4
物体間または物体内に はさまったり ひっかかったり の不慮の事故	3 0	8
過労および激動	2	
刃器および刺器による不慮の事故	9 3	2 4
その他手工具	(1 0)	
その他の機械	(7)	
その他(ガラス破片他)	(7 6)	
爆発物による不慮の事故(爆発性ガス),(花火)	3	
高熱物体腐食性液体および蒸気による不慮の事故	5 5	1 4
車による事故,他に分類されないもの(エレベーター)	2	
機械による事故,他に分類されないもの	1	
その他および詳細不明の不慮の事故	1 4	
	3 8 4	

不慮の事故，中毒および暴力

傷害の性質

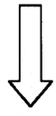
骨折 頭蓋，脊椎および体幹の骨折	1 2	1%
上肢の骨折	3 7	3
下肢の骨折	1 9	1.5
骨折を伴わない関節脱臼	9 3	7
関節の捻挫および隣接筋の過伸展	4 1	3
頭蓋内損傷（頭蓋骨折を伴うものを除く）	1 0	1
胸・腹および骨盤腔の内部損傷	4	0.5
頭・頸および体幹の裂傷および開放創	2 6 3	2 0
上肢の裂傷および開放創	8 2	6
下肢の裂傷および開放創	1 1 0	9
多箇所にあたる裂傷および開放創	1 0	1
表在損傷	1 1 2	9
挫傷および破砕（皮膚表面に損傷のないもの）	1 3 8	1 1
孔口への異物侵入	1 1	1
熱 傷	6 9	5
神経および脊髄の損傷		
化学物質の有害作用		
その他の有害作用		
頭部打撲	2 7 8	2 1
	1 2 8 9	1 0 0

不慮の事故および暴力以外の
外科的疾患

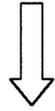
疾 患 名	患者数
急性中垂炎	19
ヘルニア嵌頓	20
その他の急性腹症	3
鼻出血	3
腸重積症	2
原因不明の四肢痛	2
その他(各1)	8
左大腿膿瘍	
肛門周囲膿瘍	
指化膿創	
精索水腫	
尿路結石	
関節炎	
耳痛	
耳出血	
	57

外科系入院例の内訳

	外 科 症 例 数	整形外科 症 例 数	脳 外 科 症 例 数	合 計	%
自動車交通事故 内自転車走行中	7 (2)	10 (1)	24 (7)	41 (10)	33
自転車による事故	5	2	5	12	10
転倒, 転落による事故	2	17	12	31	25
急性腹症 (急性虫垂炎を含む)	19			19	16
腸重積症	1			1	1
鼠径ヘルニア	3	1		4	3
熱 傷	4			4	3
そ の 他	4	2	5	11	9
	45	32	46	123	100



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



神奈川県立厚着病院において昭和 52 年 4 月からの 1 年間に救急患者として取
扱った 15 才以下例を小児科例と外科系列とに分けて検討した。